

今年四月に潮見支所長に就任しました。支所では、ワンストップサービスとして住民異動やマイナンバーカード、健康保険、年金、出生などに関係する手続きを一か所で完結できるように職員が丸となってスキルアップに取り組んでおります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために定期的な換気と窓口カウンターなどの頻繁な消毒清掃を徹底しており、お客様が安心して手続きを行えるように努めておりますので、ぜひお立ち寄りください。

地域において一番身近な市役所である支所には多種多様な相談をされる方が来られます。「親切、丁寧に分かり易く」をモットーに可能な限りお手伝いできるように努めたいと思います。



松山市役所潮見支所
支所長 西原 英作

就任にあたり

六月、今年も地域の方のご支援により五年生の田植え体験が実現しました。汚れた手足を洗い流す水まで用意していただくなど、地域の方の温かさや潮見の子どもの成長を願う熱い思いを感じました。

授業中、教室を覗くと、『潮見地区史跡・八十八ヶ所巡り』など何冊かの郷土誌を使って学習する子どもたちの姿。この冊子は全て地域の皆さんにより編集されたことを知りました。子どもたちの心には、ふるさとに対する自信と誇りが育まれるでしょう。私は、潮見校区の教育力・郷土愛に驚くとともに、潮見小学校百四十七年の歴史と伝統はこの地域力により支えられていることを改めて実感いたしました。

地域の皆様とともに潮見の子どもたちを育みたいと思います。ご支援・ご協力をよろしく願っています。



潮見小学校
校長 大久保 秀司

地域とともに

潮見地区民生委員・児童委員は二十二名で、「地域の身近な相談相手」として活動しています。

少子化や核家族化によって地域のつながりが薄れる中、高齢者や障害のある方、子育てや介護をしている方などが、周囲に相談できず孤立してしまうケースが増えています。

そこで、地域の身近な相談相手として、必要な支援を行うのが「民生委員・児童委員」です。

松山市の高齢者福祉サービス

松山市及び松山市社会福祉協議会では、潮見地区社会福祉協議会、潮見地区民生児童委員会や松山市地域包括支援センター城北の皆さんと協働・連携を深めながら下記のような支援活動を行っています。

詳細を知りたい方やサービスを受けたい方はお近くの民生児童委員または松山市市民担当課、市社会福祉協議会などへお問い合わせください。

3 愛の一声訪問事業 (安否確認)

- 対象は七十七歳以上の一人暮らしの方
- 訪問者が週二回、対象者宅を訪問し、乳酸菌飲料(無料)を配布しています。

2 配食サービス事業 (安否確認)

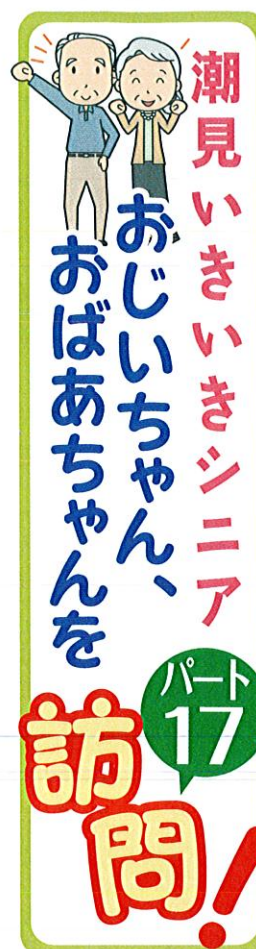
- 対象はおおむね六十五歳以上の一人暮らし、高齢者のみの世帯、心身障がい者のいる世帯
- 一日一食の栄養バランスのとれた食事を弁当形式にして配達しています。(自己負担あり)

1 安心カード見守り支援事業 (緊急時の救命・救急活動情報)

- 対象は六十五歳以上の高齢者、障がい者手帳・療育手帳の交付を受けている方
- カードに命を守る情報を記入し冷蔵庫に保管



松山市及び市社会福祉協議会の 支援活動例



潮見ふるさと音頭

光峰 常美さん(吉藤)

71歳(昭和25年生まれ)

一、出会い

光峰さんは看護職に邁進される日々、平成二十七年の三島神社夏祭りの準備中に潮見ふるさと音頭を初めて聴かれ、踊りたいと思われたそうです。その頃踊っていたのは潮見チームだけだったので、潮見地区まちづくり協議会(以下「まち協」)は早速吉藤チームを結成し、光峰さんにリーダーを託されたそうです。その結成時に振付け講師の松岡富枝さんから踊りの指導を受けられました。

二、広がり

平成二十九年に平田、平成三十年に鴨川・志津川チームが結成され踊りのチームは大きく広がりました。チーム連絡会も立ち上がっています。



吉藤チーム

そして五つの定例行事をはじめ、老人・障害者施設などから依頼があり、踊る場が増えてきました。さらに踊りの演目も増え、着付け教室も開かれています。

(今はコロナ禍で活動休止中)

三、心引かれた理由

光峰さんは怒和島出身。お盆には必ず帰省し、盆踊りや太鼓の響きでエネルギーをチャージした体験が、潮見ふるさと音頭への想いに繋がっているようです。

四、潮見ふるさと音頭のあゆみ

平成六年、松山市の「町の歌を作る」通達により、宮内トシ子さん作詞、三原樹子さん作曲で作られた潮見ふるさと音頭は、講師の松岡さんがポッポ苑で踊るなどして今に受け継がれたようです。そして平成二十五年、まち協が潮見ふるさと音頭のCDとDVDを制作。潮見各地の良さと特徴が歌詞にしみじみと語られています。

五、まち協副会長としての取組

潮見ふるさと音頭の普及のため、作詞の宮内トシ子さんの講演会を開催(令和二年)されたり、潮見小学校とのコラボで児童にも踊りを広げたりするなどの活動をされています。

潮見ものがたり

潮見地区まちづくり協議会

総務部長 藤本 次郎

(夏祭り)



(敬老会)



コロナ禍で踊ることができない中で、今年は小学生用の法被を作製し好評とのこと。次は大人用法被の計画をしているなどアイデア豊富のようです。そして、これらは、まち協の皆様の大きな力で支えられていることに感謝しておられました。

看護職を四十七年間(病院に四十一年、看護協会に六年)勤め、ご退職。認知症になってはいけないうと思っていた時、潮見の宝「潮見ふるさと音頭」に出会い、その後、まち協で地域の方と前向きに取り組まれている光峰さん。今後益々お元気でご活躍されることを心からお祈りいたします。



(潮見山から小学校を望む)

冊子の巻末には、八十八ヶ所全てを巡った方に「巡行証」としてスタンプを押す欄もあります。そして今、巡行完了者が、「行って来たよ」と元気な声でスタンプを求めて来るようになっていきます。まだお持ちでない方は、潮見支所二階・まちづくり協議会、または公民館でお求めいただけます。

「潮見ものがたり」はまだ始まったばかり。潮見地区が存在する限り「ものがたり」は続きます。二十年、三十年と語り継がれ、また次の時代にふさわしい「潮見ものがたり」が生まれてくるものと信じています。



(潮見ものがたりシリーズより)

写真が始まりました。この写真を見つかけに「潮見の原風景」が吉藤編が発行されました。その後も「潮見ものがたり」シリーズとして、『潮見の橋』『大川の鳥』『潮見八景』を刊行。そして、まちづくり協議会設立以来八年間調査してきた地域の史跡や名所などを八十八ヶ所に編集したのが第四弾となる『潮見地区史跡八十八ヶ所巡り』です。